

愛知県日進市「くるりんばす」の利用実態と利用者意識の経年的変化に関する一考察

名城大学 井上 佳和
 名城大学 正会員 松本 幸正
 名城大学 稲富 貴久

1. はじめに

交通不便地域の解消，公共施設への交通手段の提供などの目的から，自治体運営によるコミュニティバスの運行が増加している．しかし，コミュニティバスの運行による詳細な利用実態や利用者意識は，十分に捉えられていない．

本研究では，愛知県日進市「くるりんばす」を対象として，利用実態調査と利用者意識調査を，昨年度に引き続き行い，経年的な変化をみた．この調査結果から，よりよいコミュニティバスのあり方を検討する．

2. 「くるりんばす」と調査の概要

(1) 「くるりんばす」の概要

「くるりんばす」は，9便/日/1コースで，市役所を起発着点とする循環型の全5コースで運行されている．停留所数は昨年度の調査時が全75箇所，今年度の調査時は2ヶ所増設され，全77箇所であった．昨年度の調査時からの変化は，バス車両に低床型車両が導入されたことである．運賃は一乗車100円で，65歳以上の高齢者と中学生以下の子供，障害者手帳を交付されている人とその付き添い1名は無料である．

(2) 利用実態調査と利用者意識調査の概要

「くるりんばす」利用者を対象に，停留所間ODや乗り換え・乗り継ぎ状況を捉えるための利用実態調査と，利用者属性や運行形態に対する評価などを捉えるための利用者意識調査を行った．

調査日時は利用実態調査を平成15年11月6日(木)，12日(水)，13日(木)，平成16年11月4日(木)，10日(水)，11日(木)に行い，利用者意識調査を平成15年11月12日(水)，13日(木)，平成16年11月10日(水)，11日(木)に行った．利用者意識調査は，バス車内でアンケートを配布し，郵送により回収した．アンケートの配布部数は平成15年度が1100部，回収部数が515部，回収率が46.8%で，平成16年度が配布部数1084部，回収部数が12月2日時点で462部，回収率が42.6%であった．

利用者意識調査でのアンケート項目は，利用者の属性，バスに対する評価，運行にあたり重要視すべき点

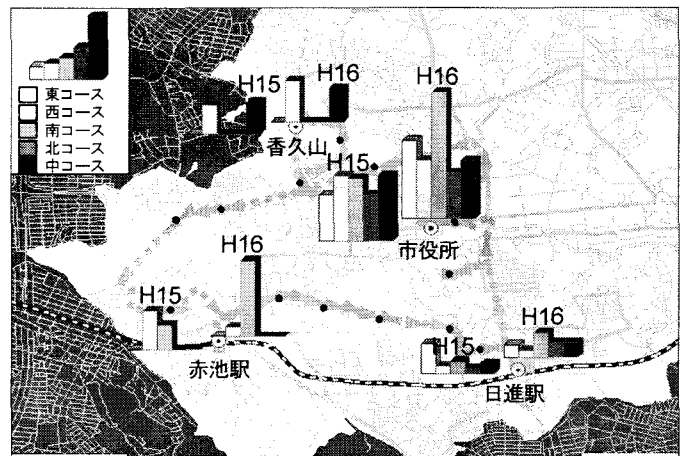


図1. 主要停留所の乗り換え・乗り継ぎ状況の変化

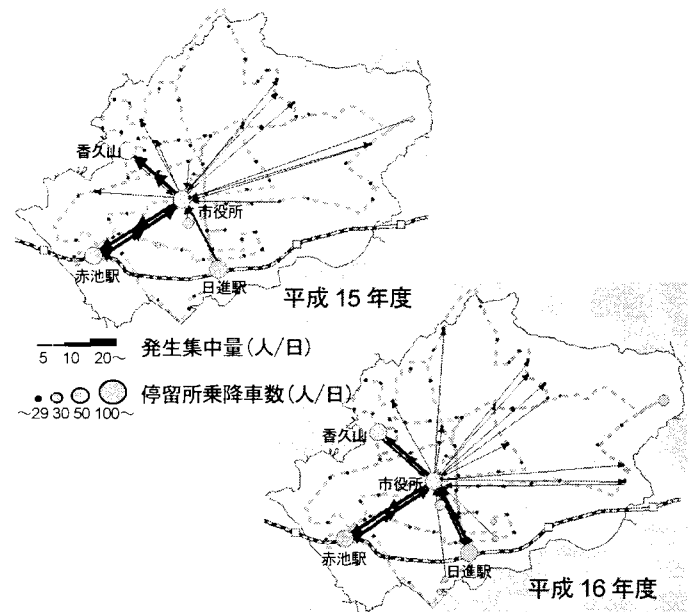


図2. 市役所に関するOD分布

などである．

3. 利用実態調査結果の経年的比較

(1) 乗り換え・乗り継ぎ状況

利用実態調査より，利用者の乗り換え・乗り継ぎ状況を捉え，GISで表示し，昨年度と比較した．図1に全コースの起発着点である市役所と鉄道駅，大型ショッピングセンターが立地する香久山での乗り換え・乗り継ぎ状況の変化を示す．図より，全体的に乗り換え・乗り継ぎ利用者が昨年度より増加したことがわかる．特に，市役所での乗り換え・乗り継ぎ利用者が増加しており，なかでも南コースへの利用者が増加したことがわかる．これは，南コースが他コースよりも，市役所から鉄道駅へ向かう順路が早いからだと考えられる．

(2)停留所間 OD 分布

図2に乗り換え・乗り継ぎ利用者が増加した市役所に関する OD 分布を示す。図より、市役所と鉄道駅、香久山間の交通手段として、利用する人が多いことがわかる。さらに、昨年度よりも、それらの利用者は増加していることがわかる。

4. 利用者意識調査結果の経年的比較

(1)評価項目ごとの満足度

利用者意識調査では、バスの運行形態に対して利用者がどのように感じているかを調査した。図3にその評価項目と満足している人の割合を昨年度と今年度別に示す。図より、今年度は昨年度より満足している人の割合が低くなったことがわかる。特に、「バスの経路」が低下していることがわかる。これは、今年度の調査時にバスの経路上で行われていた工事が、一要因だと考えられる。さらに、昨年度と同様に「一方向循環型」、「バスの本数」、「運行時間帯」などの運行形態に対して、満足している人の割合が低いことがわかる。

(2)各項目の「総合評価」への影響

バスの「総合評価」に対する各項目の影響を、数量化理論2類を用いて定量化する。目的変数に「総合評価」を、説明変数に各評価項目をとった。図4に各項目のレンジを示す。図より、昨年度は「運転手の対応」に対する評価が、「総合評価」に対して影響が高かったことがわかる。一方、今年度は「全コース市役所を起発着」、「乗り心地」、「バスの経路」に対する評価が、「総合評価」に対して影響が高いことがわかる。

(3)バス運行にあたり市が重要視すべき点

日進市が「くるりんばす」を運行するにあたり、何を重要視すべきかを、利用者に対して調査した。図5に重要視すべき点と重要視すべきと思う人の割合を示す。図より、「利用者満足度の向上」、「介護福祉サービスの充実」などは、昨年度と同様に重要視すべきと思う人の割合が高いことがわかる。また、「市の財政負担の減少」、「運行経費の減少」などは、昨年度と同様に重要視する人の割合が低いことがわかる。

5. おわり

本研究では、愛知県日進市「くるりんばす」を対象に利用実態調査と利用者意識調査を行い、経年的な変化をみた。利用実態調査から、乗り換え・乗り継ぎ利用者が増加したことがわかった。利用者意識調査から、バスの運行形態に対して利用者の満足度が全体的に低

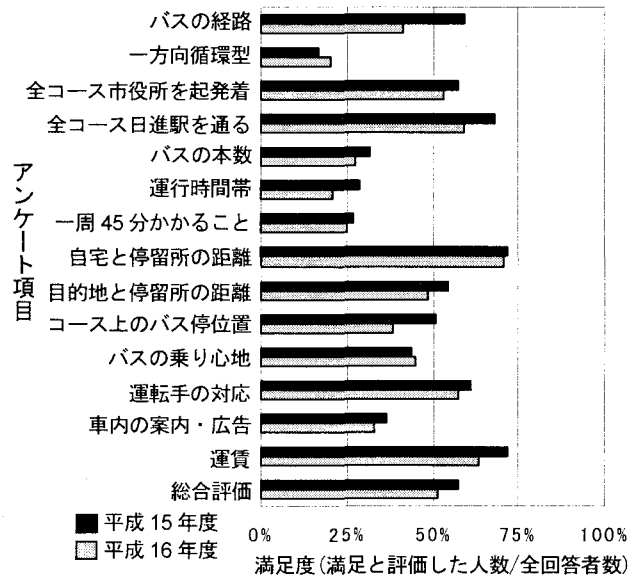


図3. 評価項目ごとの満足度

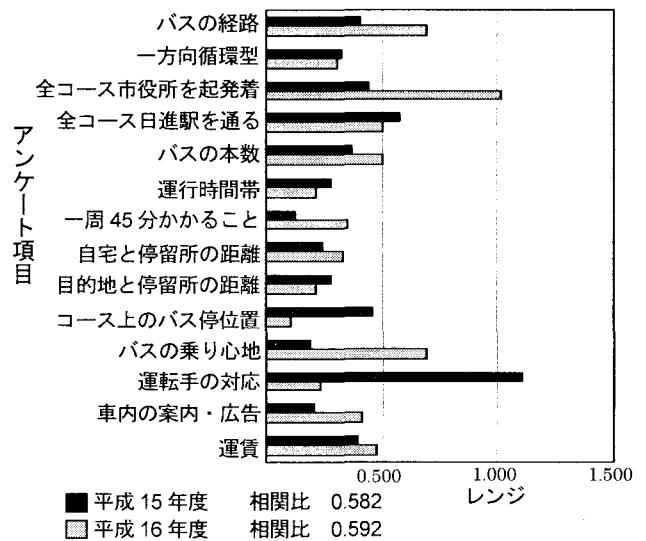


図4. 「総合評価」に対する影響

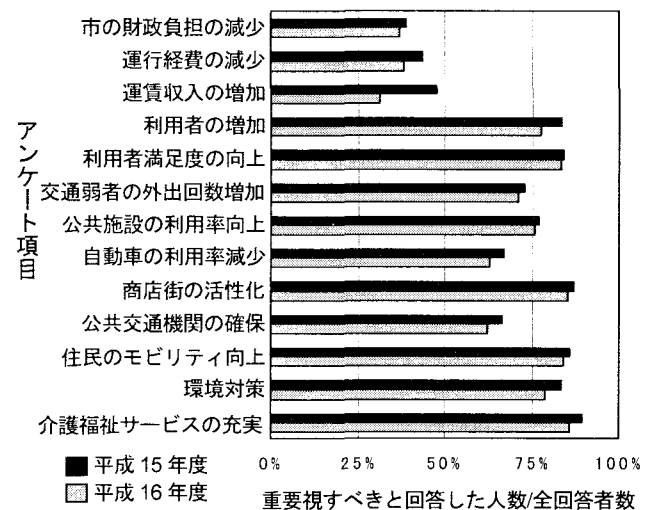


図5. 重要視すべき点

下したことがわかった。また、市が「くるりんばす」を運行するにあたり何を重要視すべきかという項目に対しては、利用者意識に変化はみられなかった。